

148



死亡現認(確認)證明書

◎ 裏面に被上(遺族)の署名を要する(1)ト云ふ。

資料提供者		死者の資料							現留守持業者		本籍地		所有の屋敷		
死亡の通知方法		死亡の状況					死亡の時間	死亡の場所	死亡の場所	死亡の場所	死亡の場所	死亡の場所	死亡の場所	死亡の場所	死亡の場所
		死亡の状況	死亡の状況	死亡の状況	死亡の状況	死亡の状況									
古茂山病院 死亡者名簿		遺留品	古茂山麓に埋葬	遺族の状況	戦病死	昭和16年10月	朝鮮咸北古茂山病院	朝鮮兼采養失調病	昭和16年10月	昭和16年10月	昭和16年10月	昭和16年10月	昭和16年10月	昭和16年10月	
本人入原一六 病院の単座		関係の人名	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	遺族	
第四二二五番		住所													
		(死亡の状況)							氏名		氏名		氏名		
		詳細不明の采養失調病 昭和16年10月古茂山へ転送し 米前輸送中に古茂山へ転送し 重傷となり病院に入院 采養失調病の重傷により 昭和16年10月古茂山へ転送し 死亡したものと推定される。							[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		

年()月()日 昭和 年 月 日
 () () ()
 () () ()

現認證明書

籍地

國省名 滿洲第四航路隊部 通稱名 滿洲第一方面部隊
昭和三年徵集 現役 飛行兵上等兵 (昭和三年八月十五日)

昭和三年八月十五日 死亡の推定 (合計所持未定)

1. 死亡の年月日 病令
2. 死亡の箇所 病令 (肺結核)
3. 死亡の場所 朝鮮在成山收容所 第三大隊 宿舎
4. 死亡の状況 本人は昭和三年八月三日 部隊最高層後
中隊の一角に死す。同日他大隊の兵士も
5. 死亡の前夜の状況 昭和三年八月三日 夜中

昭和三年八月三日 夜中

昭和三年八月三日 夜中

昭和二十一年三月三日

現住所

住友會社 兼友 陸軍少長

一、死亡者の本籍地

二、埋葬地と死亡場所を証明する

本籍地と同じ 實父

左相違ない事を証明する

昭和二十一年二月 日

[Redacted signature area]

[Redacted text]

[Redacted text]

[Redacted text]

現認証明書

本籍地

現住所

所属部隊

朝一九三五部隊
官憲兵隊
死後

一役種兵種年次

一死七年月日時

一死七場所

一死七区介

一死七海田存
病名發病原因
現認事項

一遺遺骨の有無

一遺族現住所姓柄氏名

右相違無きこと証明す

昭和 年 月 日

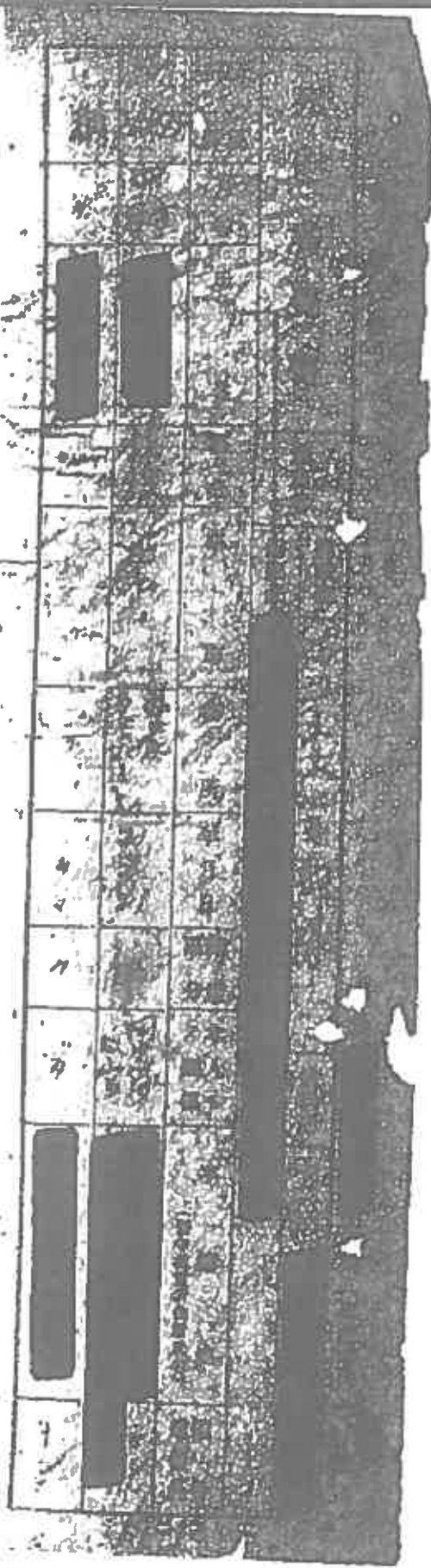
現住所



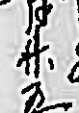

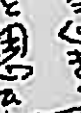
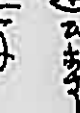


所属部隊

現認者 官憲兵名

昭三六三
朝鮮富田原富田憲兵隊
病死
善養生所

朝鮮富田原富田部隊
現認者 官憲兵名



お國の災は、御座り居に、お祈り奉
け、書面にて、報せし、事
貴方主人、、生、其、心、に、
お祈り、成、徳、有、事、、丘、
所、、
時、、
致、、
か、、
三、、
一、




様

9-12

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所属部隊名(通稱號) 南支隊 二番隊

一、徵集年 昭一九 役種 現役 兵種 通信兵(勤務)

一、官 階(死歿前) 陸軍上等兵 (死歿後) 陸軍上等兵

一、氏 名 [Redacted] 年 月 日生

一、死歿場所 北輝太塔丸山嶺

一、死亡原因 非由 暴着 突刺 右胸 傷 死亡

一、死歿年月日時間 昭和一九年 月 日 時 分

一、死歿者本籍地留守担当者 [Redacted]

有確認(證明)ス

昭和三年 月 日

元所属部隊名 [Redacted] 元官階級 [Redacted] 現住所 [Redacted]

元官階級 [Redacted]

氏名印 [Redacted]

氏名印 [Redacted]

(註) 死亡理由、場所ハナルベクリンクト特ニ経戦後ノ死亡ハ明細ニ、生年不明ニナツタ者ハソノ前後ヲクワシクモ知ラセ下サイ。

宛先 [Redacted] 地方世話部認定保 [Redacted]

4278

21-12

2980

謹啓

地方世話部

突然の事にて皆様の驚きと御悲歎と予想しつつ、任務として仰知らせねばならぬ
ことも残念に思ひます。仰々思
君は去る昭和二十一年九月十九日マラ

イ、シマール州メンヤホール附近に於て自動車事故の爲受傷せられ翌二十日午前
十時五分遂に死なれ教されまじと云

今、私と云ふ思ひかけなかつた事では呆然として居ります。今此處と深甚の
哀悼の意を表しつつ、死りに向う君の面影を辿りせめども、同君の安うかに眠
らねむ。こども新念致します。

同君も赤心をなすられ、作業隊の一員として南方に残留せられたりと云ふ長が終
戦以來堪へ難き忍従し不如意の現実を殆ども負けず中隊一の朗か者

として免れす。此は希望と矢ひ勝ちな戦友をばけまし。目的、なす作業や
あつた。誠心誠意心魂をかたむけ、それのみ存し、明日の爲とす

陰も此階と打ひもかた。暗闇の祈禱を遺るは、あつた。長が、誠心誠意心魂をかたむけ、それのみ存し、明日の爲とす

5-11

警備司令部の連絡員として命を賭して奮闘するに決ま

した。同僚の五名は特合車隊の作業者として重たいケガを被り、

自動車に溺れ、シカゴカンに落ちて出奔した。丁度その悲報を耳に

した。司令部に知らせた。私は早速南方第三陸軍病院にかけつけ

た。病院は豪華な坂の上の小屋で、設備等はまあまあだった。私

が行った時既に白衣に染められた。六名中私が寝合に寝たけつて

の最後尾に乗って来た。四五哩の速力で疾走して、自動車がS字

型のカーブを切り、横道に仰向けに転倒した時、アスファルトの

路に頭骨骨折を被り、その負傷は致命的な程だった。その

定期的な痛みは、血塊の外は、うげいさえもなく、たが昏々と

あふれた。軍医は私の傍に寄り、二瓶を飲んで、思いますが、

どう云けりませぬ。何んが胸をいっつと締めつけられるのを

連日の作業を道連れに白焼けたる丸茶な面影も、今はなく、

機械的に動く心臓の動きだけが、陰鬱にかぶさって来ませぬ。

せめて、西向親に

一眼の合せ大かつたか。同じ死ぬなり飛行機で死なせ大かつたか。どうにもな
らぬ魚油のりかこり上げてくるを何れかあまさんでした

後程私にその現状を視察に来りまは。運送手さえこつかり、そのお尻ならはこ

うしたことは、何れかようもあつたものを、うらんかも鬼ままたか、敵な、こころあきらめま

と長、全く何一つともま、ならぬ今の状態、たつた一つりの名前は、無事に向地へ

帰ることとしたり、**君**はその名をさえ、純え男、遊園、幾何幾千理、

南の國の十字架、下に永眠されなげぬがなうぬとは、藤幸の同君をおはれむ

と昔に、何ともしも、あきらめきれない、わうらと思はれ、此際、あきらめ、一隊

何と云って、おとせすか、よりのやう、あきら、こころと思ひまひつ、隊長と

とこの幸さをして、かしく、味はひまゝと

同君、お慰は其、後、何の考もなく、こかにこの昏々と眠つて、そら、静け

さりの内、都に、死の影、とこの光が、もつれ、争ひ、刻々と、一方、方々、突進、まね

るの、知らぬ、あきら、いづれ、思ひ、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま

あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま

あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま、あきら、ま

七光 甚く極むは如く... 誠にしてあらず... 入海... 田... 終り...

田 既して水... 今... 人... 著し人... 暇... 暇... 暇...

こゝの... なる... 其の... 何か... 予... 予...

弟... 聖朝... 病... 丁度... 心... 心...

心... 思... 思... 思... 思... 思... 思...

士官... 誠... 誠... 誠... 誠... 誠... 誠...

忍... 忍... 忍... 忍... 忍... 忍... 忍...

丁... 丁... 丁... 丁... 丁... 丁... 丁...

由... 由... 由... 由... 由... 由... 由...

心... 心... 心... 心... 心... 心... 心...

危... 危... 危... 危... 危... 危... 危...

あり... あり... あり... あり... あり... あり... あり...

に... に... に... に... に... に... に...

死... 死... 死... 死... 死... 死... 死...

君... 君... 君... 君... 君... 君... 君...

既に藤と死な水にさうりす 衛生冬の積雪の声に眠頭があつてなまらぬ

やめて戦友か右に参りまらぬ 一飲一飲感慨をきかた 面持ちか之き友々

塚穴と堀を若い勇士達の有様と私に言ひ知れぬ 感動にうたれまらぬ

北の方遠く祖國をのぞき マライ、シボールの奥ふかき所 今にしも 君は永

遠く眠らむとこそわらふ事 かわりて戦友の手に運われ七骸は底に埋め

られまらぬ 埋められぬ 君への 最後うけなむけは 戦友の 高うらむ歌

ふつと飛行機の歌はつたのむす 勿論親ゆかりの手を遠くけなめてけなまらぬか けなまらぬ 一所に誓

つた戦友達のなす得る限り哀悼の情を以て 君は多少分はならぬ

眠らむ水にさうりす

最早之以上何の藤た言葉でもって物とせしむ此藤のあきらまには何の

甲斐もなむと思ひますか 人世何事も運命の送る所せめて

君の如き。墓のあはれを祈るの外 何の力は有らぬ

死亡者現認證明書

原籍郡縣		國省		縣		村		町		番		地		本籍地	
[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
死亡年月日時		昭和二十一年十月		日		時		分		秒		死亡場所		[Redacted]	
死亡原因		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
現住所		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
所屬郡縣		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
官職		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
死亡年月日		昭和二十一年十月		日		時		分		秒		死亡場所		[Redacted]	
死亡原因		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	
現住所		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]		[Redacted]	



死亡者姓名	死亡場所	死亡年月日時分	死亡原因	埋葬場所	埋葬年月日時分
石現	現	昭和二十一年四月五日	不明	不明	不明
死亡者本籍地	死亡者本籍地	死亡者本籍地	死亡者本籍地	死亡者本籍地	死亡者本籍地
守備官	守備官	守備官	守備官	守備官	守備官
傷亡病名	傷亡病名	傷亡病名	傷亡病名	傷亡病名	傷亡病名
受給年役種兵名	受給年役種兵名	受給年役種兵名	受給年役種兵名	受給年役種兵名	受給年役種兵名
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
死亡時間	死亡時間	死亡時間	死亡時間	死亡時間	死亡時間
死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所	死亡場所
埋葬場所	埋葬場所	埋葬場所	埋葬場所	埋葬場所	埋葬場所
埋葬年月日時分	埋葬年月日時分	埋葬年月日時分	埋葬年月日時分	埋葬年月日時分	埋葬年月日時分
兵種	兵種	兵種	兵種	兵種	兵種

某長夫調元 示未廟

(遺族之慰問部之傷者)

昭和二十一年四月五日

元新加坡政府第六區第八大隊
元官任以
元官母
元官妻
元官長

14-12

Handwritten mark at the bottom right corner.

現認證明書

滿洲派遣 第六空部隊 隊

陸軍伍長

游縁五

右者昭和二十一年十月十二日朝鮮咸興陸軍病院

肺結核 衣リ戦死(戦病死)コロトヲ現認ス

昭和二十二年二月十日

現認者元滿洲第六空部隊

隊陸軍一等兵

現住所

氏名



1. 新居 部隊 南州第六六二七部隊

2. 氏名

3. 死没當時の階級 伍長

4. 本籍地

5. 死没情況

昭和二十五年十月十七日 四場 竹朝鮮感興陸軍病院
の戦斗情況

③ 受傷箇所(病名) 肝臓核

④ 死没後の処置 蘇生病院 慰子山 埋葬

⑤ 遺骨運送品の処置 風土敷 少塚 川津三セリ

6. 現認か 他から聞いたものか 現認

7. 他に現認者の有無 有

8. 遺骨中の線長の線は竹村氏